

## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月31日

上場会社名 カーリットホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4275 URL <http://www.carlithd.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 廣橋 賢一  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 澤 幸之 TEL 03-6893-7060  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有 2019年12月9日、機関投資家・証券アナリスト向けに決算説明会を開催予定

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	24,228	△8.7	582	△43.4	699	△39.8	241	△66.8
2019年3月期第2四半期	26,525	6.3	1,029	52.7	1,161	49.5	726	40.1

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △297百万円 (△121.2%) 2019年3月期第2四半期 1,401百万円 (10.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	10.19	—
2019年3月期第2四半期	30.67	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	49,861	26,180	52.5	1,104.75
2019年3月期	53,712	26,752	49.8	1,130.06

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 26,180百万円 2019年3月期 26,752百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	—	—	12.00	12.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	△7.5	1,750	△24.8	1,900	△25.5	900	△43.0	38.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
 詳細は、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料10ページの「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	24,050,000株	2019年3月期	24,050,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	351,964株	2019年3月期	376,040株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	23,685,994株	2019年3月期2Q	23,674,100株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料4ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2019年12月9日に機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。当日配布する説明会資料については、説明会開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

（その他特記事項）

該当事項はありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社グループは、2019年度を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「ワクワク21」を策定し、スタートさせました。

当計画の基本テーマとして「利益指向で事業の足場固めを積み重ね、新たな取り組みに向けて経営資源を投入する」ことを掲げ、付加価値の高い製品やサービスを創出し、新たな事業領域を切り拓いていくための諸施策を遂行します。

グループ経営理念である「信頼と限りなき挑戦」のもと、少子高齢化やAI・IoT、SDGs等の社会課題と向き合い、研究開発、新規事業、M&A、海外事業等への取り組みをより積極的にを行い、既存・周辺事業についても基盤強化を図ってまいります。

(1) 経営成績に関する説明

米中貿易摩擦の長期化等に起因する世界経済の不透明な動向が、第2四半期連結累計期間の業績の低迷をもたらしました。これに加え、「ボトリング事業部門」において一部の製造ラインの不具合に起因する業績への影響がありました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、242億2千8百万円（前年同期比 22億9千6百万円減、同8.7%減）、連結営業利益は5億8千2百万円（前年同期比 4億4千7百万円減、同43.4%減）、連結経常利益は6億9千9百万円（前年同期比 4億6千2百万円減、同39.8%減）となりました。

また、投資有価証券の売却による特別利益3億2千万円ならびに上記製造ライン不具合に関連する諸施策の費用等として6億1千5百万円を特別損失として計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億4千1百万円（前年同期比 4億8千4百万円減、同66.8%減）となりました。

セグメント別の状況は以下の通りです。

(単位：百万円)

区 分	連 結 売 上 高		連 結 営 業 利 益	
	前第2四半期	当第2四半期	前第2四半期	当第2四半期
化学品	11,430	10,953	646	482
ボトリング	9,769	8,349	84	△127
産業用部材	4,630	4,052	221	△9
小 計	25,830	23,356	952	346
その他・消去	694	872	77	235
合 計	26,525	24,228	1,029	582

「化学品事業部門」

化薬分野においては、自動車用緊急保安炎筒は車検交換向けは微増に、新車装着向けと高速道路用信号炎管は増販となりました。また煙火関連も増販となりました。一方で、産業用爆薬は土木案件の減少により減販となり、分野全体としては微増となりました。

受託評価分野においては、危険性評価試験、電池試験とも減販となりました。

化成品分野においては、ロケットの固体推進薬原料である過塩素酸アンモニウムは打ち上げスケジュールが計画通り進み増販となりました。また、過塩素酸は大幅な増販、除草剤も増販となりましたが、パルプ漂白用の塩素酸ナトリウムが顧客の定期修繕等の影響により微減となり、分野全体としては減販となりました。

電子材料分野においては、電池材料向けの過塩素酸リチウムと近赤外吸収色素が大幅な増販となりましたが、米中貿易摩擦の影響を受けて機能性高分子コンデンサ向けピロール関連製品、チオフェン系材料、アルミ電解コンデンサ向け材料は減販に、電気二重層キャパシタ用電解液が大幅な減販となり、分野全体としては減販となりました。

セラミック材料分野は工作機械・海外向け不調の影響を受け減販となりました。

その他では、販売商社である佳里多(上海)貿易有限公司が大幅な増販に、三協実業株式会社は減販となりました。

これらの結果、当事業門全体の売上高は109億5千3百万円（前年同期比 4億7千7百万円減、同4.2%減）、営業利益は4億8千2百万円（前年同期比 1億6千3百万円減、同25.3%減）となりました。

「ボトリング事業部門」

一部の製造ラインに不具合が発生したため当該ラインの稼働を一時的に停止し、全面的なリニューアルを実施いたしました。この稼働停止に伴い、当事業部門全体の売上高は83億4千9百万円（前年同期比 14億1千9百万円減、同14.5%減）、営業損失は1億2千7百万円（前年同期は8千4百万円の営業利益）となりました。

なお、当該製造ラインのリニューアルは現時点ですべて完了しており、従前通りの稼働を再開しています。

「産業用部材事業部門」

米中貿易摩擦の影響により、シリコンウェーハ、ばね・座金製品とも減販となりました。また、耐火・耐熱金物も減販となりました。

これらの結果、当事業部門全体の売上高は40億5千2百万円（前年同期比 5億7千8百万円減、同12.5%減）、営業損失は9百万円（前年同期は2億2千1百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

総資産は498億6千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億5千1百万円減少いたしました。これは、受取手形及び売掛金が32億6千8百万円減少、投資有価証券が10億9百万円減少、棚卸資産が1億8千9百万円増加、建設仮定が1億1千3百万円増加したことなどによります。

負債は236億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ32億7千8百万円減少いたしました。これは、支払手形及び買掛金が17億6千4百万円減少、長短借入金が8億3千7百万円減少、未払法人税等が1億8千1百万円減少、その他流動負債に含まれる未払消費税等が2億6千7百万円減少、その他固定負債に含まれる繰延税金負債が1億7千8百万円減少したことなどによります。

純資産は261億8千万円となり、前連結会計年度末に比べ5億7千2百万円減少いたしました。これは、その他有価証券評価差額金が5億5千6百万円減少したことなどによります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の49.8%から52.5%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは、19億6千7百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が3億7千万円の計上となり、減価償却費が9億8千5百万円、売上債権の減少が33億5千6百万円、仕入債務の減少が18億1千1百万円、法人税等の支払額が7億3千3百万円あったことなどによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、3億2千1百万円となりました。これは、固定資産の取得による支出が9億6千2百万円、投資有価証券の売却による収入が5億5千1百万円あったことなどによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって使用されたキャッシュ・フローは、13億4百万円となりました。これは、借入金の減少額が8億3千3百万円、配当金の支払額が2億8千7百万円あったことなどによります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて3億3千7百万円増加し、46億2千4百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月15日の2019年3月期決算発表時に公表いたしました通期連結業績予想を次のとおり修正いたしました。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	54,000	2,200	2,350	1,600	67.58
今回修正予想 (B)	50,000	1,750	1,900	900	38.02
増減額 (B-A)	△4,000	△450	△450	△700	—
増減率 ( % )	△7.4	△20.5	△19.1	△43.8	—
(ご参考) 前期連結実績 2019年3月期通期	54,049	2,328	2,551	1,579	66.70

修正の理由

米中貿易摩擦の長期化等に起因する世界経済の不透明な動向が、第2四半期連結累計期間の業績の低迷をもたらしました。

特に、化学品事業部門では電子材料分野が、産業用部材事業部門ではシリコンウエーハとばね・座金製品がこの影響を強く受け、いずれの事業部門も売上高および利益を大きく押し下げられました。

これに加え、ボトリング事業部門において、一部の製造ラインに不具合が発生したため当該ラインの稼働を一時的に停止し、全面的なリニューアルを実施いたしました。この稼働停止に伴い、当事業部門は大幅な減収減益となりました。なお、当該製造ラインのリニューアルは現時点ですべて完了しており、従前通りの稼働を再開していますが、諸施策の費用等が2020年3月期通期連結業績の利益への圧迫要因となる見込みです。

通期の連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間までの業績動向に加え、不透明な世界経済の動向が継続する見込みであることから、売上高および各段階利益ともに公表の予想を下回る見通しとなり、上記の通りの修正に至りました。

なお、当連結業績予想の修正に伴う配当予想の修正はありません。

2019年12月9日に2020年3月期第2四半期決算説明会の開催を予定しております。また、同日に当社ウェブサイトに決算説明会資料を掲載いたします。

(注) 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,357	4,691
受取手形及び売掛金	13,428	10,159
商品及び製品	2,365	2,404
仕掛品	774	863
原材料及び貯蔵品	1,452	1,512
その他	844	825
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	23,220	20,456
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,502	9,315
機械装置及び運搬具(純額)	4,114	3,905
土地	5,533	5,533
建設仮勘定	262	375
その他(純額)	1,832	1,775
有形固定資産合計	21,245	20,904
無形固定資産		
のれん	95	71
その他	50	61
無形固定資産合計	145	132
投資その他の資産		
投資有価証券	8,113	7,103
退職給付に係る資産	8	8
その他	982	1,259
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	9,101	8,368
固定資産合計	30,492	29,405
資産合計	53,712	49,861

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,354	5,590
短期借入金	3,228	3,214
1年内返済予定の長期借入金	1,741	1,765
未払法人税等	450	268
賞与引当金	584	613
その他	2,195	2,015
流動負債合計	15,555	13,467
固定負債		
長期借入金	3,906	3,058
環境対策引当金	76	76
役員株式給付引当金	62	65
退職給付に係る負債	1,208	1,201
その他	6,149	5,811
固定負債合計	11,404	10,213
負債合計	26,960	23,681
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,099	2,099
資本剰余金	1,192	1,192
利益剰余金	20,114	20,067
自己株式	△208	△195
株主資本合計	23,197	23,163
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,740	3,184
繰延ヘッジ損益	△0	△6
為替換算調整勘定	74	76
退職給付に係る調整累計額	△259	△237
その他の包括利益累計額合計	3,555	3,016
純資産合計	26,752	26,180
負債純資産合計	53,712	49,861

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	26,525	24,228
売上原価	22,247	20,393
売上総利益	4,277	3,835
販売費及び一般管理費	3,248	3,253
営業利益	1,029	582
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	110	115
持分法による投資利益	14	17
雑収入	71	49
営業外収益合計	196	182
営業外費用		
支払利息	40	44
為替差損	—	6
雑損失	23	15
営業外費用合計	64	65
経常利益	1,161	699
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	—	320
補助金収入	—	0
特別利益合計	0	322
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	37	34
品質関連損失	—	615
特別損失合計	37	650
税金等調整前四半期純利益	1,123	370
法人税等	397	129
四半期純利益	726	241
親会社株主に帰属する四半期純利益	726	241

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	726	241
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	627	△556
繰延ヘッジ損益	37	△5
為替換算調整勘定	△10	1
退職給付に係る調整額	22	21
その他の包括利益合計	675	△538
四半期包括利益	1,401	△297
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,401	△297

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,123	370
減価償却費	973	985
のれん償却額	113	24
売上債権の増減額 (△は増加)	770	3,356
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△416	△195
仕入債務の増減額 (△は減少)	△282	△1,811
その他	730	△292
小計	3,012	2,437
法人税等の支払額	△837	△733
法人税等の還付額	182	263
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,356	1,967
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△23	△77
定期預金の払戻による収入	89	84
固定資産の取得による支出	△1,624	△962
固定資産の売却による収入	20	0
投資有価証券の取得による支出	△8	△9
投資有価証券の売却による収入	0	551
その他	88	91
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,458	△321
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	761	△9
長期借入金の返済による支出	△987	△823
配当金の支払額	△286	△287
利息の支払額	△38	△44
長期預り金の返還による支出	△82	△68
その他	△66	△71
財務活動によるキャッシュ・フロー	△700	△1,304
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	197	337
現金及び現金同等物の期首残高	4,222	4,286
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,420	4,624

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	化学品	ボトリング	産業用部材	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,251	9,769	4,494	25,514	1,010	26,525
セグメント間の内部売上高 又は振替高	179	—	136	316	2,400	2,716
計	11,430	9,769	4,630	25,830	3,410	29,241
セグメント利益	646	84	221	952	1,481	2,433

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主要な製品・サービスは請負工事、塗料・塗装、設計等であり、持株会社である当社を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	952
「その他」の区分の利益	1,481
セグメント間取引消去	△1,403
四半期連結損益計算書の営業利益	1,029

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	化学品	ボト リング	産業用 部材	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,769	8,349	3,958	23,078	1,150	24,228
セグメント間の内部売上高 又は振替高	183	-	94	277	2,248	2,526
計	10,953	8,349	4,052	23,356	3,398	26,754
セグメント利益又は損失(△)	482	△127	△9	346	1,324	1,670

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主要な製品・サービスは請負工事、塗料・塗装、設計等であり、持株会社である当社を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	346
「その他」の区分の利益	1,324
セグメント間取引消去	△1,088
四半期連結損益計算書の営業利益	582

(重要な後発事象)

該当事項はありません。